

札幌市環境影響評価条例における放射性物質の取扱いについての審議及び追加意見等の概要

(1) 1回目：2015.4.24 (2) 2回目：2015.7.14)

事務局への質問、意見等

委員名	質問・意見等の概要		事務局の回答・説明の概要
遠井委員	最終処分する廃棄物	(1) 国は、8,000Bq/kg以下の廃棄物は通常行われている処理方法により安全に処理することが十分可能としているが、通常行われている処理方法とはどういうことを指しているのか。また、最終処分する場所は放射性廃棄物の最終処分場と考えてよいか。	(1) 最終処分する場所は、市の埋立地などである。 また、通常行われる処理方法とは、一般的な埋め立て方法を指す。
松井委員	国の動向	(2) 放射線量について、(国の方では)話が進んでいないように感じるが、国から何か情報提供はあるか。	(2) 国からの情報は無い。
松井委員	放射性物質に係る規制基準	(2) 資料3において、「汚染された土地が発生、発見される場合に備え」とあるが、これは環境影響評価というよりも規制基準にも関係する話である。放射性物質に係る汚染について、何らかの規制基準を設定する考えはあるのか。 基準が設定されないと、例えば最終処分場で漏洩が判明したときの事後対応策に言及しようとしても、具体的な対応策の策定が困難になることが懸念される。 環境影響評価条例の改正は、基準が決まってから行うのか、決まらなくても行うのか、いずれか。	(2) そのような事態が発生したときは環境影響評価という観点ではなく、何らかの措置を講ずることになると考える。 技術指針の策定に当たっては、ご指摘いただいた事項を参考にさせていただきます。 現時点においては、放射性物質を対象にすることでの手続ということで我々としては考えており、放射線量の基準等については、国の動向を見据えながら検討して行きたい。
黄委員	浸出液処理施設の扱い	(2) 主務省令では、浸出液処理施設について放射性物質は評価対象外となっているが、これは処理施設において十分に水処理がされることから対象外としないという意味か。	後日回答する。 ※ 国に確認したところ、8,000Bq/kg以下の廃棄物を扱う限り、水処理を行う前の浸出液であっても、放射性物質については問題がないことから評価対象外としたものである、との回答があった。
松井委員	放射性物質の量の評価	(2) 国は、放射性物質の量の評価を実効線量で行う予定なのか。	(2) 空間放射線量(実効線量)で行う、としている。
松井委員	放射性物質に係る環境影響評価の手法	(2) 環境影響評価では、基準値がないまま評価することも可能だが、放射性物質に関してはそのような手法を採るといふ考えか。 (2) 環境影響評価の基本的な方針としては、基準値を下回るよりも、むしろ、どれだけ環境負荷を低減するかという努力を評価するというスタンスだと考える。このため、今後案件が出てきたときは、いかに努力しているかを評価する方針で臨むべきである。	(2) 評価の手法としては、基準値と比較する手法と、環境負荷を可能な限り低減しているか評価する手法があるが、国が何らかの基準を定めるのか、動向をさらに見て行きたい。 技術指針の策定に当たっては、ご指摘いただいた事項を参考にさせていただきます。

アドバイザーへの質問事項

委員名	質問の概要		アドバイザーの回答・説明の概要
森本委員	放射性物質の推定量	(1) 福島第一原子力発電所事故に伴い放出された放射性物質の量の推計値が、推計した機関により倍以上異なるのはなぜか。	(1) 放射性物質の分布が不均一であることから、試料をサンプリングする場所の違いが推計値に影響することが理由の一つとして考えられる。 また、推計に使用するモデルが異なることも原因の一つである。
森本委員	年齢による預託実効線量の影響	(1) 預託実効線量は、幼い子供ほど放射線に対する感度が高いことを反映しているという理解でよいか。	(1) そのとおりである。感度の高さと抵抗力の弱さを考慮しているものと思われる。

森本委員	内部被ばくの経路 放射能の減衰	①	内部被ばくの影響については、放射性物質が土壌に降下し、それが植物に吸収されて人体に摂取されると理解した。 ここで、焼却灰、下水汚泥、土壌等で放射能の減衰の程度に差異があるが、最も放射能が減衰しにくいものは何か。	①	日本の食品の基準値はかなり低く、基準を超過する食品は流通しないので、内部被ばくについては自然減とは別にコントロールされていると考える。 なお、種類により放射能の減衰に差異があるのは、放射性物質の汚染経路、施設の稼働の状況などを反映しているものと考え。 環境中でセシウムが残留しやすいのは土壌で、粘土鉱物に強く吸着される。このため、降雨等があってもほとんど移動しない。 ここで、放射能を評価する際には、乾燥状態か湿潤状態かで数値が大きく異なるため、採取した時点の試料の状態に留意する必要がある。
村尾会長	空間放射線量について	①	空間放射線量が数年で大きく減少しているが、セシウム134が減少したことによるものか。	①	セシウム134は当初の4分の1になっており、その影響が大きいと考える。
遠井委員	通常の方法で処理可能な廃棄物	①	国は、8,000Bq/kg以下の廃棄物は通常行われている処理方法により安全に処理することができるとしているが、核種の指定がない。このことをどのように考えるか。	①	おそらくセシウムに限定しているものと思われる。
遠井委員	基準設定にあたり想定している対象	①	放射能に係る基準について、人の健康上の観点からと、環境への影響という観点から設定することが想定されるが、どちらの観点から基準を設定していると考えるか。	①	人間の感受性が一番高いため、人間が守られれば、ほかの生物も守れるということが基本的な考え方ではある。しかし、ICRPなどで、生態系への影響評価というのが始まりつつある。 このため、現時点では、人間のみを考慮しているものと考え。
村尾会長	ホールボディカウンター の測定対象	①	ホールボディカウンターでは何を測定しているのか。内部被ばくも含めて測定しているのか。	①	外部被ばくは測定の対象としていない。内部被ばくについて、体内から放射されるガンマ線を測定して全体の被ばく量を推測するものである。
村尾会長	空間線量の予測	②	粉じんの飛散により空間放射線量がどれだけ増加するか、予測可能なのか。	②	かなり難しいと考える。 また、一般的に空間放射線量の測定器はガンマ線のみしか測定できず、アルファ線やベータ線を放出する核種が評価されない。ただ、アルファ線やベータ線は測定自体が困難であり、国レベルで対応する必要がある。
宮木委員	放射性物質の生態濃縮		生物への影響として、生態濃縮の問題があるが、これは放射線の量の項目で評価されることになるのか。		放射線量で生物にどのくらい濃縮されるかを評価することは不可能だと思われる。